

「東京湾再生のための行動計画(第二期)」第1回中間評価 概要

全体目標

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

第二期行動計画の概要

- 第一期より引き続き「陸域負荷削減対策」、「海域における環境改善対策」、「東京湾のモニタリング」に関する各取組を推進する。
- 「底層の溶存酸素量(DO)が評価指標であった第一期では、東京湾再生に向けた様々な取組を適切に評価できていなかったことから、あらゆる興味を東京湾に引きつけられるような評価指標を工夫する。
- 取組の成果を端的に評価できる場所として、7箇所のアピールポイントを設定する。
- 東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を広げるため、企業、NPO、水産関係者、研究者、レジャー関係者、流域住民等、多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」を設置し、推進会議への提言を担う組織とする。

平成25年度から平成27年度における中間評価と今後の取組

陸域

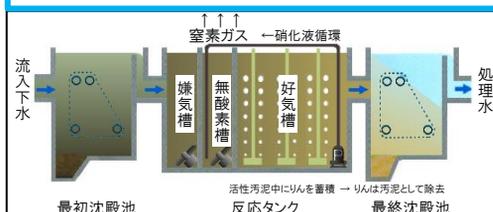
【中間評価】

- 総量削減計画に基づく取組により陸域からの汚濁負荷の削減が着実に実施されている。
 (第7次総量削減計画における削減量
 COD20トン/日、窒素15トン/日、りん0.6トン/日
 ※基準年度H21末から目標年度H26末までの削減量)
- 汚水処理人口普及率は0.8%増加(約70万人)し、効率的な汚水処理施設の整備が着実に推進されている。
- 下水道の高度処理実施率が20%増加するなど、高度処理の導入が着実に推進されている。
- 平成25年度末までに中小規模都市の合流式下水道改善対策が100%完了し、目標を達成している。
- 江戸川等7河川で直接浄化が実施されるなど、河川の浄化対策が着実に実施されている。
- 雨水浸透ますの設置(77千個)や森林整備(間伐面積14千ha)等が実施されるなど、面源から発生する汚濁負荷の削減が着実に推進されている。

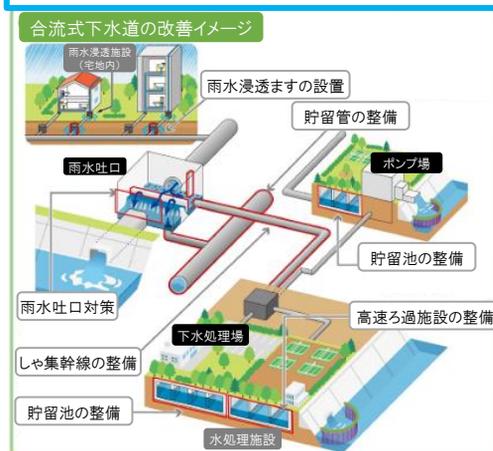
【今後の取組】

- 第8次総量削減計画の策定と目標達成に向けた取組を推進
- 今後10年程度を目途に汚水処理を概成するための効率的な整備及び高度処理の導入を推進
- H35年度末までの完了に向けた大規模都市における合流式下水道改善対策を着実に推進
- 面源負荷対策や市民等との連携など関係施策を着実に推進

高度処理による窒素、りんの削減



合流式下水道の改善対策



河川の浚渫



清掃活動

平成25年度から平成27年度における中間評価と今後の取組

海域

【中間評価】

- 浚渫土砂等を活用した覆砂や深掘り跡の埋め戻し、藻場の造成等が着実に実施されており、生物生息場が拡大した(81ha)。また、モニタリングにより生物生息環境の改善が確認された。
- 国、港湾管理者の清掃船による浮遊ゴミの回収(23,649m³)やNPO、企業等と連携した清掃活動、汚泥浚渫等が着実に実施されており、水質改善や景観及び快適性の保全に寄与している。
- 東京湾沿岸各地で多様な主体との連携・協働による体験学習、イベント等を多数実施した。海に親しむ機会の創出、東京湾の再生に関する啓発活動が着実に実施されている。

【今後の取組】

- 覆砂、深掘り跡の埋め戻し、藻場の造成等を着実に実施し、生物生息場の拡大や貧酸素水塊の減少対策を推進
- 浮遊ゴミ等の回収の継続的な実施や効率的な回収を実施
- 官民連携による環境教育、海の自然・生物に親しむイベント等の継続的な実施や新たな活動の場所の検討、市民が親しみやすい良好な親水空間の創出を推進



浮遊ゴミの回収

アマモの育成

モニタリング

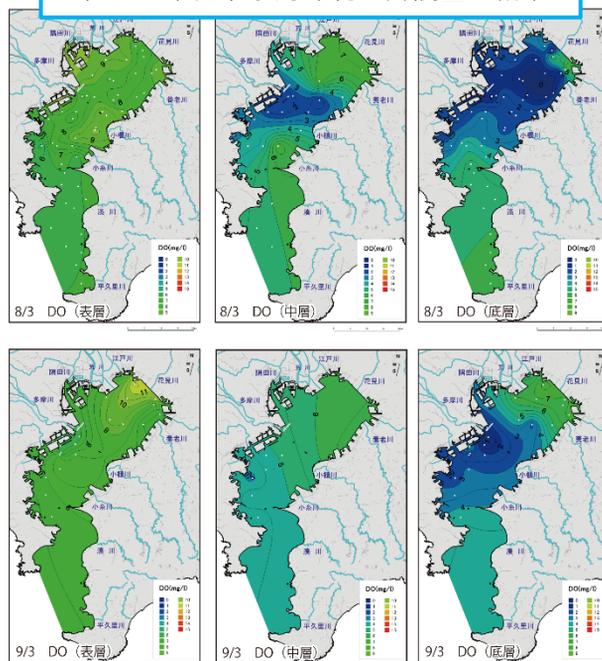
【中間評価】

- 東京湾再生官民連携フォーラムの東京湾環境モニタリングの推進PT等と連携して、毎年夏季に東京湾環境一斉調査を実施している。一斉調査へは、例年、約150もの機関が参加しており、東京湾の水質調査イベントとして着実に定着しつつある。
- 船舶やモニタリングポストを用いた水質監視を確実に実施することで、東京湾における貧酸素水塊や赤潮の発生状況の把握に寄与している。
- ホームページや報告書等を通じ、モニタリング結果の公表が着実に推進されている。

【今後の取組】

- 官民が更に連携を図り、東京湾環境一斉調査を着実に実施。一斉調査のうちの生物調査については、調査対象種や調査方法等について検討
- 各種調査、モニタリングの着実な実施
- 各種調査結果の確実な公表及び調査結果の効果的なアピール方法についての検討

平成27年度東京湾環境一斉調査の結果



調査の様子

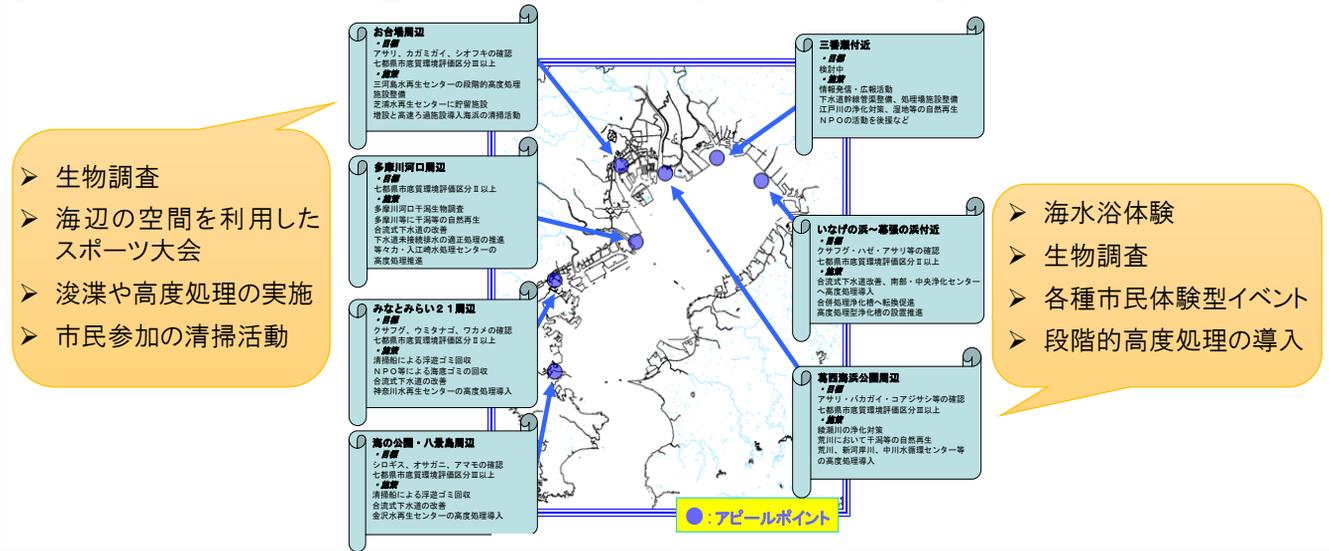
アピールポイントにおける取組

【中間評価】

行動計画策定時に実施を予定していた施策については、ほぼ着実に実施されているほか、行動計画策定時には予定されていなかった取組も、多数行われている。

【今後の取組】

引き続き、予定施策を着実に実施するとともに、多様な主体との連携・協働を図りながら、新たな取組を模索し、行動計画における全体目標及び小目標の達成に向けた取組を進めて行く。



官民連携の推進

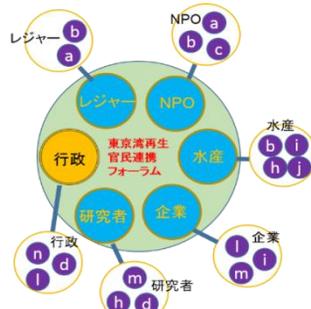
東京湾再生推進会議

行政(国・自治体)

- ・目標の設定
- ・行動計画の策定
- ・全体の進捗についての確認・検証
- ・先進的な取組の検討

提言

連携



平成25年11月「東京湾再生官民連携フォーラム」設置

【フォーラムにおける主な取組(平成25～27年度)】

- ・ 東京湾再生のための行動計画(第二期)の新たな指標に関する提案(指標PT(H26.11))
 - より多くの多様な主体を東京湾再生に惹きつけるべく、わかりやすく多様な評価指標の策定を実施し、28項目の指標を提案書にとりまとめ。
 - 推進会議では、平成27年5月に提案指標をすべて採用する形で評価指標を策定。
- ・ 生き物生息場つくりに関する提案(生き物生息場つくりPT(H28.2))
 - 10年スケールで官民が連携して取り組むべき生息場つくりの基本的な考え方と進め方についてとりまとめ。
 - 関連省庁と生き物生息場つくりPTが連携して検討を進めていく予定。
- ・ 東京湾大感謝祭の開催
 - 平成25年度より毎年度開催(平成27年度参加者実績:8万8千人)。推進会議による後援や推進会議の構成機関による展示等を実施し、連携して開催している。
- ・ 東京湾環境一斉調査とワークショップ
 - 東京湾環境一斉調査及び調査結果の取りまとめ方等についてワークショップを開催。その成果を「東京湾環境マップ」として毎年度発行している。

指標の評価

東京湾再生に関する様々な取組を評価するための指標

快適な水遊びができる

- 透明度
- 合流改善対策によって削減された汚濁負荷量
- 海のゴミの量

親しみやすく美しい

- 海辺に近づける水際線延長
- 水辺のイベント開催回数

「江戸前」をはじめ 多くの生物が生息する

- 藻場の箇所数
- 江戸前の地魚・魚介類の販売箇所数、イベント数
- 青潮

首都圏にふさわしい

- 下水処理施設の放流水質
- フォーラム会員数、東京湾大感謝祭の来場者数
- 科学論文、報告書の数

など、全28項目の指標

【指標の評価】

◆着実に短期目標が達成されたと評価される指標：6項目

合流改善対策によって削減された汚濁負荷量、生物生息場の面積箇所数等

◆一部又は概ね達成されたと評価される指標：3項目

透明度、COD、海のゴミの量

◆短期目標を達成していないと評価された指標：11項目

糞便汚染、海浜公園等の施設利用者数、DO濃度、下水処理施設の放流水質等

◆現状の把握はできたものの、目標達成状況の評価には至らなかった指標：5項目

水遊びイベント・環境学習・イベント等の参加者数、藻場の箇所数等

◆現状把握及び目標達成状況の評価には至らなかった指標：3項目

海が見える視点場、水辺のイベントの開催回数、水上バス・屋形船・レストラン船の利用者数

【今後の取組】

- 各指標のデータを継続して把握
- 行政機関だけでは把握が難しいデータについて、データの収集・分析等をフォーラムと協力して実施する等、フォーラムとの連携促進

まとめ

- 陸域からの汚濁負荷削減対策、海域における環境改善対策、東京湾の環境モニタリングといった、「東京湾再生のための行動計画(第二期)」において位置づけられている各取組を着実に実施している。
- 東京湾再生に関する様々な取組を評価するための指標に関するデータを収集・分析したところ、一定の改善が見られていると評価することができる。
- 一方で、東京湾全体の水質改善に向けては、目標の達成には至っていない。
- 東京湾の再生は長期的な展望が不可欠であることを念頭に、今後も各主体が連携し、着実な取組を進めていく必要がある。